

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和4年6月6日	部名	微生物部
調査研究課題		県内における腎症候性出血熱（HFRS）の実態調査		
調査研究体制	主任研究者	西田倫子		研究区分 (小分類)
	その他の研究者	成田翼、水流奈己、新田真依子 宮原加奈、三浦美穂、吉野修司		
	調査研究期間	令和5年度～令和7年度（3か年間）		
	調査研究費	予算項目	令和5年度	令和6年度
	国費	千円	千円	千円
	県費	200千円	500千円	300千円
	その他	千円	千円	千円
	合計	200千円	500千円	300千円
調査研究の目的		<p>当県の油津港は、令和2年に検疫港以外では全国で初めてファーストポートとして整備されたが、整備条件のひとつである港湾衛生業務（港で捕獲されたネズミなどが保有する病原体検査等）において、ハンタウイルス抗体陽性疑い事例が確認された。この事例で、ハンタウイルスは公衆衛生上重要であるが、感染症法で三種病原体に分類されているため検査に必要な抗原等の入手・管理が困難であること、国内でヒト用の市販検査キットがないこと等の理由から、国内におけるヒトのハンタウイルス感染症の検査体制は脆弱であることが明らかとなった。また、当所には症状が類似するレプトスピラ症疑い患者の検体を収集・保管しているが、その多くはレプトスピラ症陰性であり、ハンタウイルス感染症のひとつでレプトスピラ症と症状・感染経路等が類似している HFRS との関連については未調査である。</p> <p>これらのことから、県内における HFRS の発生状況を調査し、ハンタウイルス検出系を確立することで、HFRS 疑い事例が発生した際も迅速に対応できる検査体制を整備することを目的とする。</p>		
調査研究内容	研究の実施計画	<p>① ヒトにおけるハンタウイルス検出系の確立 ② レプトスピラ症疑い検体からの遺伝子検査・抗体検査 ③ 陽性例が出た場合、疫学情報の精査</p>		
	技術手法	<p>① PCR法等を用いた遺伝子検出 ② ELISA法等を用いた抗体検出</p>		
	年次計画	<p>令和5年度：ヒトにおけるハンタウイルス検出系の確立 令和6年度：遺伝子検査・抗体検査 令和7年度：陽性例の疫学的な関連調査</p>		
調査研究の効果等 <small>（行政効果・県民ニーズへの波及効果等）</small>		<p>○県内の HFRS の発生状況を調査することで、公衆衛生上重要な感染症として県民に注意喚起を図ることが出来る。 ○これまで不明のままであった症例を調査し、臨床現場に情報をフィードバックすることが出来る。 ○ハンタウイルス感染症の検出系を確立することで、HFRS 疑い事例が発生した際に迅速に対応することが出来る。</p>		
備考				